

# 「町制施行50周年・ 宗谷管内移管記念」シリーズ

No. 8 「町の木」と「町の花」

## ○「町の木」「町の花」の選定

町では「町の木」と「町の花」を選定するため、昭和46年(1971)10月30日に地域環境美化樹種等選定委員会を設け、委員に北大演習林長、商工会長、幌延・問寒別農協両組合長、森林組合長、小学校長ら12名を委嘱、会長には北大演習林長の滝川貞夫氏が選任されました。また、町長、助役、教育長、企画課長、産業課長、施設課長、町民課長は参与となりました。

その後の委員会で、町の木と町の花の選定基準を定め、さまざまな資料に基づいて検討が行われ、それぞれ5種に絞られました。町の木についてはアカエゾマツ、シラカバ、ハルニレ、ナナカマド、ミズナラ、町の花についてはテシオコザクラ、エゾスカシユリ、ヒオウギアヤメ、ノコンギク、ツツジを選び、さらに検討が進められました。

昭和48年(1973)3月1日、委員会は慎重審議の結果、町の木については「アカエゾマツ」、町の花については「テシオコザクラ」とすることに全委員の意見が一致しました。

その結果、昭和48年3月14日、第2回町議会定例会に「町の木」を「アカエゾマツ」、「町の花」を「テシオコザクラ」とする決議案が提出され、原案どおり可決されました。

### ◆ アカエゾマツ

マツ科の常緑針葉樹で北海道を中心としてサハリンと千島列島の一部にのみ分布しています。樹皮は赤褐色で不規則なうろこ状の薄片で、枝を水平に出してすらりと伸びており、樹齢は数百年に達するものもあります。本町には問寒別の蛇紋岩地帯に約2,000haにわたる原生林があり、サロベツ湿原、砂丘地帯にも見られ、テシオマツ、ヤチシンコの別名があります。

この木は材質がすぐれ、一般用材の他に楽器材としてピアノの響板などに用いられています。また植林や庭園樹、盆栽樹としてもよく用いられています。



アカエゾマツ



テシオコザクラ

### ◆ テシオコザクラ

サクラ草科の多年草で、北海道北部の蛇紋岩地帯にのみ見られる貴重な花です。茎の高さは約10cmで5月下旬にかれんな数個の花をつけます。花は白色で中心部が黄色を帯びています。

この花は、昭和の初めに北大の館脇博士によって問寒別ヌポロマポロ沢の上流の蛇紋岩地帯で発見されました。

また、この地帯ではテシオソウというユリ科の草花も発見されていますが、本州の尾瀬沼付近の蛇紋岩地帯に生えているオゼソウと同じものといわれ、日本で遠く離れた2カ所でしか見つかっていない不思議な植物です。

このシリーズに関するお問い合わせ又は新幌延町史(平成12年発行、1冊5,000円)の購入希望の方は、下記にご連絡ください。

お問い合わせ先 総務課企画振興グループ 電話5-1111(内線222, 223)